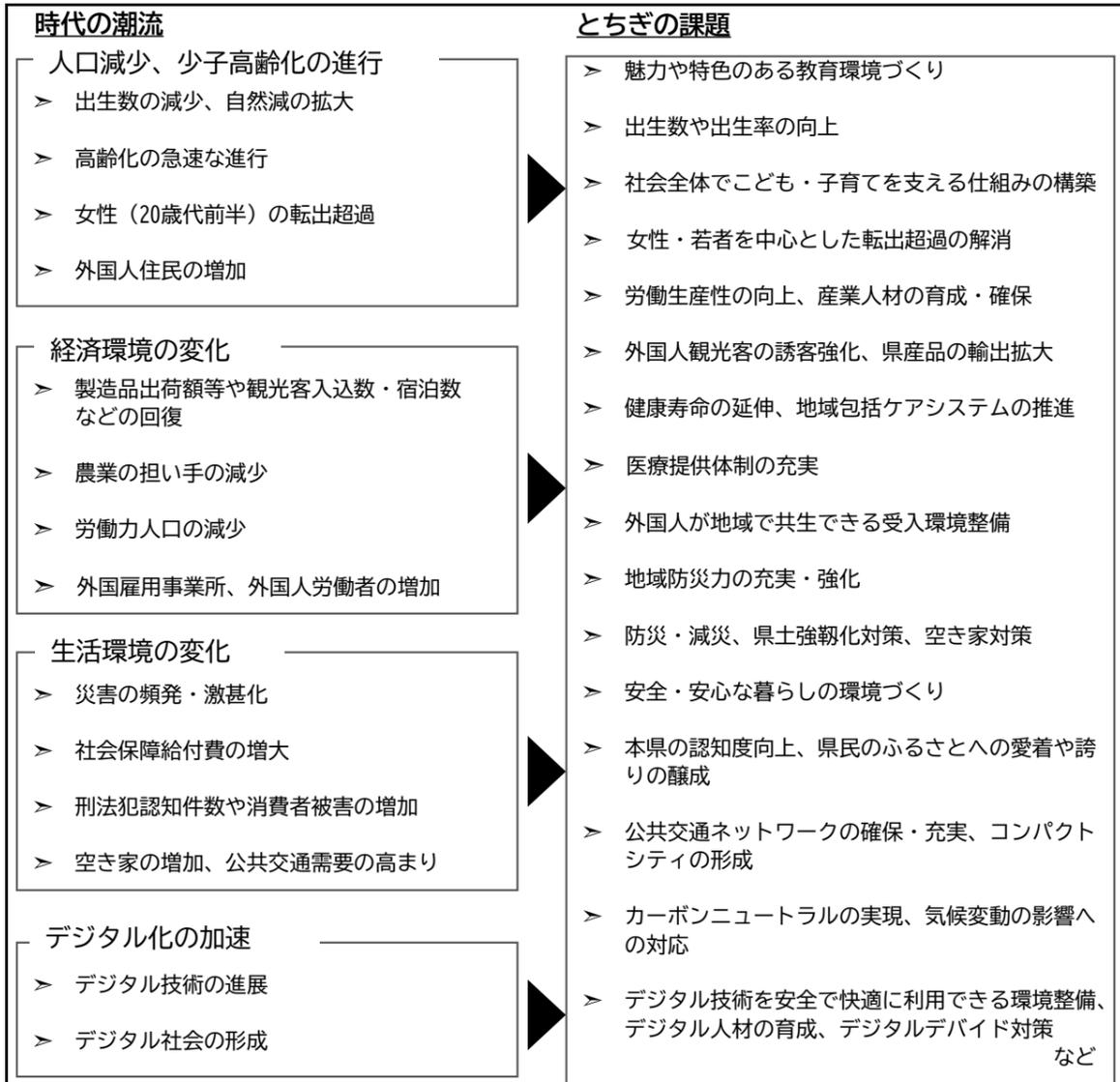


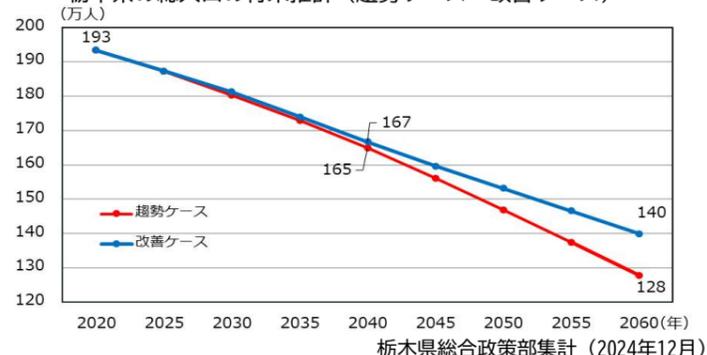
I 時代の潮流ととちぎの課題



II 人口の将来展望

合計特殊出生率を「令和17(2035)年に県民の希望出生率の1.47程度」及び「令和32(2050)年に人口置換水準の2.07程度」に向上させるとともに、人口移動数（他都道府県への転出超過数）を「令和12(2030)年に半減」及び「令和17(2035)年に±0に解消」させることにより、令和42(2060)年に約140万人を確保できる見通し

< 栃木県の総人口の将来推計（趨勢ケース・改善ケース） >



III めざすとちぎの将来像のイメージ

未来を担う人材が育ち、女性や若者が輝く「とちぎ」

イメージ
 ○社会の大きな変化の中にあっても、子どもたちが自らめざす未来を描くことができるよう、それぞれの可能性を引き出す学びが実践されています。
 ○経済的安定と子育て環境の充実により、次代を担う若者の結婚や妊娠・出産、子育ての希望が実現しています。
 ○女性・若者が活躍し、すべての県民が持てる力を発揮しています。

様々な産業が高い付加価値を生み出し、豊かさにつながる「とちぎ」

イメージ
 ○本県の強みである、ものづくり産業をはじめ、生活に身近なサービス産業や、豊かな地域資源を活用した農林業や観光産業、新たな産業等が力強く成長するとともに、企業の誘致が進んでいます。
 ○人やモノの流れを支える広域道路ネットワーク等の社会基盤が充実しています。
 ○性別や年齢、障害の有無や国籍などに関わらず、誰もが意欲と能力に応じ、いきいきと働き、地域産業を支える多様な人材が育っています。
 ○県産品の販路開拓や輸出の拡大、企業の海外展開など、稼ぐ力が育まれ、生活に豊かさがもたらされています。

県民一人ひとりが健康に暮らし、希望を持てる「とちぎ」

イメージ
 ○誰もが住み慣れた地域に必要な保健・医療・福祉サービスや生活支援サービスを受けられ、高齢になっても健康でいきいきと暮らしています。
 ○県民一人ひとりが若い頃から健康的な生活習慣を実践しています。
 ○地域の実情に応じた医療資源の確保が図られています。
 ○子どもや高齢者、障害者、外国人を含めたすべての人が地域において活躍し、安心して暮らす共生社会が実現しています。

すべての県民が安全・安心に生活できる「とちぎ」

イメージ
 ○県民一人ひとりに防災の意識が浸透し、地域の安全は自分たちで守る行動が定着するとともに、市町・関係機関との連携のもと、迅速・的確な災害対応体制が強化されています。
 ○あらゆる関係者との協働による流域治水対策により、気候変動への適応や災害に強いしなやかな県土づくりが進んでいます。
 ○広域道路ネットワークなどの充実・強化により、災害等の発生時における日常生活への影響の最小化や首都直下型地震時等のバックアップ機能が強化されるなど、県民が安全・安心なとちぎを実感しています。
 ○地域全体で交通事故や犯罪などの危険から身を守る取組が広がっています。

未来に誇れる魅力に満ち、自然と共生する「とちぎ」

イメージ
 ○県内外にとちぎの魅力と知名度が広く浸透し、県民がふるさとに愛着と誇りを持つとともに、多くの人が、とちぎを訪れたい、とちぎに住みたい・住み続けたいと思っています。
 ○地域の特性に応じた機能が集積したコンパクトな拠点づくりが進められるとともに、電車やバスなどの公共交通等の充実をはじめ各拠点をつなぐネットワークが構築されることで、生活がますます活気に満ち便利になっています。
 ○省エネや再生可能エネルギー導入等により、カーボンニュートラル実現に向けた取組が進むとともに、豊かな自然を守り共生する大切さを次の世代に伝えています。
 ○スマートシティの取組や環境整備が進むとともに、デジタル人材が育ち、活躍しています。

とちぎの将来像の実現に向けた基本姿勢

- 県民主役
- 官民協働
- 地域間連携

令和7年度に検討